

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270301625		
法人名	有限会社テル・サウスウインド		
事業所名	グループホーム テル・サウスウインド		
所在地	〒031-0841 青森県八戸市鮫町字冷水平2の1		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年1月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「入所者とご家族が安心し、信頼して頂ける介護と看護を公平・奉仕の心です。」という理念を掲げ、職員は理念熟読後に業務に入るなど共有化が図られている。  
建物は日本家屋で家庭と同じようにくつろげる居心地のよい空間となっている。  
全員参加のミーティングなどで活発な意見交換が行われ、情報を共有して個々に応じたケアができるように努めている。職員と入居者は喜怒哀楽を共有して分かち合い、入居者は生き生きと生活していると思う。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

近くに太平洋が広がり国立公園の海岸など自然豊かな中に、日本家屋の昔ながらの襖や座敷、庭などに囲まれて生活している。家の裏には八戸線が通り電車の音が生活の一部となっている。アロマテラピーを取り入れて気持ちの安らぎや消臭に努めている。独自のアセスメント様式を用いてその人らしい個別の関わりに取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員がミーティング等で理念を共有し、日々実践するように努めている。また、職員は理念熟読後業務に入っている。	利用者が書いた開設当初からの理念をホールや休憩室に掲示し、日常の中で意識してケアに取り組んでいる。利用者や家族にも説明し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で町内会に入会しており、利用者は地域の一員としてクラスことが出来るように努めている。	散歩で近くの中学生等と挨拶をしたり、町内からの回覧板で情報を得て、公民館祭りに出掛けたり地域活動に職員が参加している。地域の方から相談があったり、徐々に地域に周知されつつある。	出掛けるだけでなく、更に地域とのつながりを深める取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト有資格者が認知症について正しい知識、対応を理解していく為に努めている。また、地域の方の相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市職員、家族、町内役員、民生委員、警察官等参加して頂いている。交流を深めながら意見を参考にして、認知症ケアの向上に努めている。	年間の開催予定をお知らせし、参加しやすいように配慮している。事業所からの活動報告だけではなく、認知症についての質問に答えたり、防災対策等の具体的な話や意見を頂き取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員には運営や現場の現状、利用者についての具体的な相談を積極的に行い、助言等を頂いたりサービスの質の向上に努めている。	職員がキャラバンメイトとして協力したり、支援困難な方の相談や申請代行などを行っている。事業所の空き情報を伝えたり、制度の確認をするなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部、内部研修を行い、全職員で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をはずしている。	事業所にマニュアルはないが、高齢者虐待と一緒に研修を行い、言葉での抑制を理解し身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。日中の生活時間帯は玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部、内部研修等を行い、虐待について理解を深め、全職員で意識し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して外部、内部研修等を行い、全職員で理解を深めるように取り組んでいる。必要な方には市担当者と確認をし利用者の支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念やサービス内容、個人情報の取り扱い、金銭管理方法などについて十分な説明を行い、理解や納得をして頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議、面会時や電話連絡などにて意見、要望を聞く機会を設けている。家族や利用者が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。	面会時など職員は話し易い雰囲気を作り意見を頂いている。毎月のお便りでも意見が頂けるように働きかけている。医療面は看護師が連絡をし、意見などを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やミーティング、懇親会などで代表者は意見、提案を聞き運営に反映している。管理者は職員個別から意見を聞き取れるよう、心掛けている。	月2回のスタッフ会議や年1回施設長等との面談で意見を聞く機会を設けている。他には個別の相談など、運営や処遇等について話しをする機会があり、実際に意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の努力や実績を把握し、向上心を持って働けるように職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は力量に応じて役割を与えたり、育成の為に研修へ積極的に参加させ、職員がレベルアップ出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、学習会や懇親会などの交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族が入所前に見学に来て頂き、面談して意向を伺い、納得した上で安心してサービス利用が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を傾聴して思いを理解しながら、安心して信頼して頂けるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めて、必要としているサービス支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントや日頃の支援の中で状況把握に努め、喜怒哀楽を共感できるようにしている。また、昔の知恵や工夫などを学んだり、本人の力を発揮できるように環境整備を行い、共に支えあう、学びあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者の様子をお伝えしながら、本人と家族の絆を大切に、家族と共に入居者を支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで慣れ親しんだ事やものを大事にしなが、支援に努めている。馴染みのある方の面会や墓参り、正月の帰省など家族の理解、協力の下支援している。	入居前の担当介護支援専門員、本人と家族からの聞き取りなどで情報を収集し、買い物や面会など馴染みの物事等との関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で相性をみて席を決めたり、利用者同士が仲良く交流できるように職員が間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要な場合は相談や支援に応じており、他施設へ入所の場合は時折面会をして本人や施設の方にお話を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、家族からの情報、アセスメント、日々の関わり合いの中から意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、利用者に寄り添い、表情などから意向の把握に努めている。	ケアチェック表(独自のアセスメント様式)を用いて、担当割をしている。職員が本人と家族からの聞き取りや日常生活の観察等で意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴や趣味、生活環境などこれまでの暮らしの把握に努めている。また、全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより利用者の様子や心身状態、出来る事など現状の把握に努めている。また、全職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望をもとに、職員の気付いた事や意見を反映し介護計画を作成している。	ケアのあり方を毎月のスタッフ会議で確認し、3ヶ月ごとに評価を行っている。計画作成後家族に確認し、質問がある場合は説明をしながら意見を聞き修正をしたり、書面で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア記録を職員間で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や緊急の受診を支援したり、利用者や家族の状況に合わせその時々状況に応じたサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じて関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先はかかりつけ医の月2回の往診の他、利用者や家族のその都度現状に応じた適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医や専門医は家族が外来受診を行い、家族が対応出来ない時は事業所が同行している。協力病院を希望される方は訪問診察に切り替えている。診て頂く時は看護師から情報提供し適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員と連携を密に取り、利用者が適切な看護や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には家族や医療機関と密に連携を図り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する場合や終末期について当事業所でできることを早い段階から家族へ説明している。かかりつけ医と相談して家族と方向性を共有している。	看取りの取り組みを行っていない事は契約の時点で説明をしている。食事が摂れない等重度化してきた場合は早い段階で、事業所の態勢も加味し主治医や家族と方向性を再度相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えマニュアルをもとに、ミーティングなどで定期的に緊急時の対応に取り組んでいる。救急救命講習を全職員が受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時にはマニュアルに従い安全に避難できる体制作りを整えている。また、地域の方やご家族の協力を頂くように働きかけている。消防署の協力を得て、防災訓練を実践している。	消防署の協力で昼夜想定 of 防災訓練を年2回実施している。いろいろな災害に備え通報訓練を4回行い、地域の協力者や緊急時の連絡網を明記し、職員間で共有している。地域には防災無線もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した個々に合わせた声かけや対応を行っている。研修会への参加やミーティングなどで職員は人権の尊重について学んでいる。	虐待の研修資料を参考にし内部研修を行い、個別な関わり等について共有し理解している。その場面に応じて、その方の人格に配慮し、なれ合いにならないように取り組んでいる。	生活用品の管理やプライバシーに配慮した生活環境の取り組みに更に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族からの情報をもとに利用者との日々の関わりの中で、本人の思いや希望の把握に努めている。自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴の日程など、その日の状態に応じて、一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように職員が支援している。職員が洋服購入する際も本人の希望や似合うものを選んでいる。カットも本人の意向に沿って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り利用者と一緒に食事の準備や片付けを行い、入居者の力を引き出すように又維持できるように努めている。	調理師がメニューを決めるが、畑で収穫した物や差し入れ等で相談し変更したりしている。できる事をできる時に行って頂いたり、調理方法を伺ったり、好みに合わせるなど共に協力しあいながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事・水分量を確保できるように努めている。目安として一日1400カロリー程度、水分は1500cc程度摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、一日3回毎食後に口腔ケアを行っている。就寝前に義歯をはずして口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに職員は利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。さりげない声かけ誘導などで利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	個別に排尿や排便の観察をし、利用者にあったタイミングで誘導し尿取りパットの組み合わせ等で自立した排泄の支援に取り組んでいる。自分で排便コントロールができない方は観察し、下剤の調整を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品、野菜や果物、食物繊維の多い食材を提供したり、適度な運動をして頂くように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	外出や受診などある場合は、利用者の都合に合わせて決めている。入浴を拒否する利用者には、声かけや時間を変えるなどの工夫をして入浴を楽しんで頂いている。	曜日や時間帯はある程度決めているが、利用者の状況等に合わせて行っている。体調等に合わせた保清や対応、入浴剤の使用など工夫している。シャンプー等も選択できるよう準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の軽い運動や散歩、趣味活動を通じて、生活リズムを整えている。眠れない時には無理をせずに飲み物の提供や会話を通じて入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や副作用などを正しく理解できるように、定期的に学習する機会を設けている。薬の保管場所に薬ファイルをおいてあり、確かめて服薬介助できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握した上で食後の片付けや洗濯たたみなどのお手伝いや、趣味の読書や塗り絵など役割や楽しみ、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は近隣を散歩やドライブして気分転換を図っている。また、利用者の希望を把握し、家族の協力のもと買い物や墓参りなどの外出を支援している。	近所への散歩、海岸沿いのドライブなど、体調に配慮して外出支援を行っている。買い物等家族と出掛けることもあるが、夏場は事業所で月1回程行事で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ひとり一人に応じて、家族の了解のもとお金を所持したり、事務所へ預けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望時やできる方には電話できるように支援している。利用者が年賀はがきを家族に出せるようにお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって安心してくつろげるように、花を飾ったり季節感などを取り入れる工夫をしている。	居間のソファにつどい大きな窓から外を眺め、縁側や玄関前の椅子からは庭を眺められる。定時にアロマをたき、気持ちが安らぎ消臭の効果もみられている。行事の写真や季節毎の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で談話室で過ごしたり、廊下の縁側で日向浴したり、食堂で独りくつろぐことができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が慣れ親しんだものや写真等を持ってきて頂き、本人が心地よく過ごせるように支援している。	持ち込みの家具などは少ないが、写真や小物、カレンダーなどで室内を飾っている。体調や生活歴に合わせた居室を選定したり、ポータブルトイレを使いやすく設置したり、過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来ることや良い所を活かして手摺や洗面所の高さ、段差の除去、トイレの矢印表示等安全に自立した生活ができるように配慮している。		